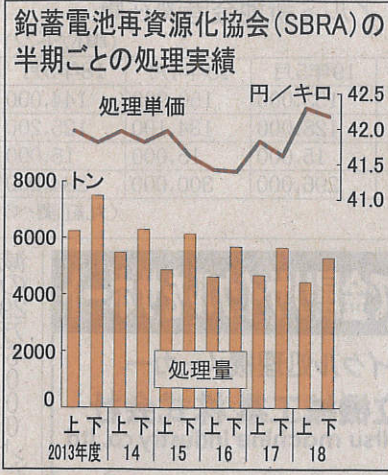


# SBRA 廃電池回収5年連続減 18年下期 無償ルートに流れず

鉛蓄電池再資源化協会(SBRA)が14日、2018年度下期(18年9月21日-19年3月20日)のリサイクル実績を発表した。それによると、電池処理量は前年同期比6・2%減



の5283ト、処理単価はキロ42・2円だった。下期ベースでは5年連続のダウンとなり、韓国向け輸出が全面ストップしながらも無償回収ルートには流れなかったようだ。

同協会は使用済み鉛蓄電池(廃バッテリー)を回収して国内での適正なリサイクルを推進するための一般社団法人。大手バッテリーメーカー4社が拠出した

運用資金をもとに、SBRAが排出業者の依頼を受けて回収し、解体・精錬業者に処理を委託して、バッテリーメーカーが処理後の精錬鉛を全量引き取るという無償回収スキームを12年7月からスタートさせた。

廃バッテリーは、自動車用バッテリーの冬季補修需要期に当たる下期に発生が増える。スキームが本格稼働した13年下期は7502トのリサイクル実績を上げたが、その後は廃バッテリーの集荷競争による価格高騰のため、年間処理量は国内発生量の数パーセント

の1万ト程度にとどまりながら漸減し、取り組みは低調だった。

バーゼル法改正によって輸出認可条件が厳格化され、昨秋には輸出ライセンスが全面的に失効したため、国内では廃バッテリーが供給過剰となり市中スポット相場も急落。しかし、春先からはキロ30円前後で下げ止まりを見せ、余剰感も次第に薄れてきたため、回収・処理量が増加に転じることがなかったようだ。18年度の年間処理量は前年比5・6%減の9712トとなり、初めて1万トを下回った。